

# 700/900MHz帯移動通信システムに関する パーソナル無線との干渉検討について

2010年10月6日

ソフトバンクモバイル株式会社

# 干渉調査の具体的進め方

- 前記1及び2に基づき、考えられるすべての組合せを洗い出す。
- 過去の調査結果を適用することなどにより新たな計算を省略できるもの、また、同一又は類似した組合せであるため、再度の計算を省略できると判断されるものは省略する。
- 上り(↑)、下り(↓)が存在する無線システムとの間については、干渉の程度がより大きくなる↑、↓方向が反転する組合せとなる干渉について行う。
- 過去の情報通信審議会での調査で用いたパラメータを利用する。
- 干渉検討の組み合わせとして、パーソナル無線と携帯電話システム(基地局、陸上移動局、小電力レピータ及び陸上移動中継局)があるが、前回、基地局及び陸上移動局について計算を実施した。  
干渉検討パターンとして、次の2パターンを検討
  - ・新携帯↓ vs パーソナル(GBなし)
  - ・新携帯↑ vs パーソナル(周波数共用)
- **パーソナル無線の利用実態(例えば、エリア毎の開設無線局数、台数密度、カバレッジ半径等)を精査して、パーソナル無線と携帯電話システム(基地局、陸上移動局、小電力レピータ及び陸上移動中継局)の検討結果を次回あるいは次々回までには報告する。**



SoftBank